

学習指導要領	都立国分寺高校 学カスタンダード
(1) 世界史への扉 自然環境と人類のかかわり、日本の歴史と世界の歴史のつながり、日常生活にみる世界の歴史にかかわる適切な主題を設定し考察する活動を通して、地理と歴史への関心を高め、世界史学習の意義に気付かせる。 ア 自然環境と人類のかかわり 自然環境と人類のかかわりについて、生業や暮らし、交通手段、資源、災害などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、世界史学習における地理的視点の重要性に気付かせる。 イ 日本の歴史と世界の歴史のつながり 日本と世界の諸地域の接触・交流について、人、もの、技術、文化、宗教、生活などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、日本の歴史と世界の歴史のつながりに気付かせる。 ウ 日常生活にみる世界の歴史 日常生活にみる世界の歴史について、衣食住、家族、余暇、スポーツなどから適切な事例を取り上げて、その変遷を考察させ、日常生活からも世界の歴史がとらえられることに気付かせる。	「身近な」項目と関連付けながら主題を設定し、系統的学習と有機的に絡ませながら、さまざまな学習を通して身に付けた知識や教養を用いて、世界史の出来事を通して考察させ、気付きをさせる。 ○ 人類は、自然環境の制約を受けると同時に、自然環境に積極的に働きかけ、適応すべき諸手段を開発してきたことを理解し、世界史学習における地理的視点の重要性に気付く。 ○ 日本と世界の諸地域の間に、相互の接触・交流の結果もたらされた多くの歴史的事例があることを理解し、日本の歴史と世界の歴史のつながりに気付く。 ○ 世界の人々の身近に存在し、日常的に利用したり、習慣化したりしている事柄について、その起源や変遷などを理解し、日常生活から世界の歴史がとらえられることに気付く。
(2) 諸地域の形成 人類は各地の自然環境に適応しながら農耕や牧畜を基礎とする諸文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きな地域世界を形成したことを把握させる。 ア 西アジア世界・地中海世界 西アジアと地中海一帯の地理的特質、オリエント文明、イラン人の活動、ギリシア・ローマ文明に触れ、西アジア世界と地中海世界の形成過程を把握させる。	人類は各地の自然環境に適応しながら農耕や牧畜を基礎とする生産経済に移行し、諸文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きな地域世界を形成したことを把握する。 ○オリエント文明の発達の仕組みを、西アジアの地理的特質や灌漑農業、政治権力の確立などから説明できる。メソポタミアとエジプトにおける文明の発達の歴史的過程を比較し、それぞれの特徴を理解する。アケメネス朝の統治について、政治体制、経済政策、異民族支配などの面から理解する。古代地中海世界が一つの文化圏を形成した理由を地中海世界の地理的特質などから理解する。ポリス社会の特徴を、代表的なポリスであるアテネとスパルタを比較して説明できる。アテネ民主政の特徴を現代の民主政と比較して説明できるとともに、ポリス社会衰退の原因を説明できる。ギ

	学習指導要領	都立国分寺高校 学カスタンダード
(3) 諸 地 域 世 界 の 交 流 と 再 編	イ 南アジア世界・東南アジア世界 南アジアと東南アジアの地理的特質、インダス文明、アーリヤ人の進入以後の南アジアの文化、社会、国家の発展、東南アジアの国家形成に触れ、南アジア世界と東南アジア世界の形成過程を把握させる。 ウ 東アジア世界・内陸アジア世界 東アジアと内陸アジアの地理的特質、中華文明の起源と秦・漢帝国、遊牧国家の動向、唐帝国と東アジア諸民族の活動に触れ、日本を含む東アジア世界と内陸アジア世界の形成過程を把握させる。 エ 時間軸からみる諸地域世界 主題を設定し、それに関連する事項を年代順に並べたり、因果関係で結び付けたり、地域世界ごとに比較したりするなどの活動を通して、世界史を時間的なつながりに着目して整理し、表現する技能を習得させる。	リシア文化とヘレニズム文化の特徴について具体的事例を挙げて説明できる。ローマ法が市民法から万民法に発展する過程について、市民権の拡大という観点から理解する。キリスト教の国教化、教義統一の過程、ローマ帝国の統治理念の形成について理解する。 ○南インドの複雑な民族構成が歴史的経緯の中で生まれてきたことを理解する。インダス文明がインド文明の源流をなすと考えられている理由を具体的な事例を挙げて説明できる。アショーカ王とカニシカ王の事績、ガンダーラ様式とグプタ様式の相違、インド古典文化がイスラーム世界に与えた影響などについて具体的事例を挙げて説明できる。ヒンドゥー教がインド社会に定着していった歴史的背景を説明できる。ていった歴史的過程を理解する。海路を利用した交易活動が盛んに行われていたことを、具体的な事例を挙げて説明できる。東南アジア世界における南アジア文明や中華文明の受容の様子を具体的な事例を挙げて説明できる。 ○殷と周の支配体制の特徴を比較して説明できる。・春秋戦国時代の社会変動の様子を具体的な事例を挙げて説明できる。秦と漢の統治政策を比較して、その相違を理解するとともに、東アジアに冊封体制が形成された意味を理解する。遊牧国家の興亡を遊牧民の活動単位から説明できる。匈奴の勢力の推移について、高祖と武帝の政策の違いから説明できる。オアシスの道が形成と西方世界との交易路として発展していくことを理解する。江南地方の開発の歴史的な意義を説明できる。唐末の混乱の中で、唐の諸制度の変化について理解する。 ○中国や東南アジアの王朝など、地域世界での空間的・時間的つながりなどを確認し、比較させるなどをして理解する。

	学習指導要領	都立国分寺高校 学カスタンダード
(4) 諸地域世界の結合と変容	ユーラシアの海域及び内陸のネットワークを背景に、諸地域世界の交流が一段と活発化し、新たな地域世界の形成や再編を促したことを把握させる。 ア イスラーム世界の形成と拡大 アラブ人とイスラーム帝国の発展、トルコ系民族の活動、アフリカ・南アジアのイスラーム化に触れ、イスラーム世界の形成と拡大の過程を把握させる。 イ ヨーロッパ世界の形成と展開 ビザンツ帝国と東ヨーロッパの動向、西ヨーロッパの封建社会の成立と変動に触れ、キリスト教とヨーロッパ世界の形成と展開の過程を把握させる。 ウ 内陸アジアの動向と諸地域世界 内陸アジア諸民族と宋の抗争、モンゴル帝国の興亡とユーラシアの諸地域世界や日本の変動に触れ、内陸アジア諸民族が諸地域世界の交流と再編に果たした役割を把握させる。 エ 空間軸からみる諸地域世界 同時代性に着目して主題を設定し、諸地域世界の接触や交流などを地図上に表したり、世紀ごとに比較したりするなどの活動を通して、世界史を空間的なつながりに着目して整理し、表現する技能を習得させる。 アジアの繁栄とヨーロッパの拡大を背景に、諸地	ユーラシアの海域及び内陸のネットワークを背景に、諸地域世界の交流が一段と活発化し、新たな地域世界の形成や再編を促したことを把握させる。 ○6 世紀後半以降のアラビア半島の経済的重要性を周辺情勢から説明できる。アッバース朝が「イスラーム帝国」と呼ばれる理由をウマイヤ朝との比較から理解する。イスラーム世界の中心がバグダードからカイロに移った背景について理解する。ムスリム商人の活動について、通商ルートを明示しながら具体的に説明できる。 ○ビザンツ帝国の統治体制の特徴を西ヨーロッパ世界との比較から理解するとともに、軍管区制とプロノイア制が導入された背景を理解する。東ヨーロッパにおいて、ポーランドからモスクワ大公国に覇権が移っていく歴史的過程を理解する。フランク王国とローマ＝カトリック教会の提携の歴史的意義を理解するとともに、地中海世界が西ヨーロッパ世界・東ヨーロッパ世界・イスラーム世界に分立していく歴史的過程を理解する。貨幣経済の浸透が封建社会の変容と国王による中央集権化に与えた影響について理解する。教皇権の隆盛と衰退の過程について具体的事例を挙げて説明できる。 ○宋代に発達した都市の特徴を唐代までの都市と比較して理解する。宋学が成立した社会的背景と国際情勢を理解する。遊牧民族の変遷を概観しながら陸や海のネットワークの発展と役割、モンゴル帝国成立による東西文化交流の意義を理解する。 ○同時代性に着目して設定した主題について、諸地域世界の接触や交流などを地図上に表したり、世紀ごとに比較したりするなどして、歴史的現象の空間的関係を把握し、その時代の世界の特徴や地域世界相互のかかわりを明らかにすることができる。 アジアの繁栄とヨーロッパの拡大を背景に、諸地

学習指導要領	都立国分寺高校 学カスタンダード
域世界の結合が一層進展したこととともに、主権国家体制を整え工業化を達成したヨーロッパの進出により、世界の構造化が進み、社会の変容が促されたことを理解させる。 (5) ア アジア諸地域の繁栄と日本 西アジア・南アジアのイスラーム諸帝国や東南アジア海域の動向、明・清帝国と日本や朝鮮などとの関係を扱い、16世紀から18世紀までのアジア諸地域の特質とそこでの日本の位置付けを理解させる。 イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界 ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の成立、世界各地への進出と大西洋世界の形成を扱い、16世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を理解させる。 ウ 産業社会と国民国家の形成 産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立など、18世紀後半から19世紀までのヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革を扱い、産業社会と国民国家の形成を理解させる。	域世界の結合が一層進展したこととともに、主権国家体制を整え工業化を達成したヨーロッパの進出により、世界の構造化が進み、社会の変容が促されたことを理解させる。 ○ティムール朝におけるトルコ＝イスラーム文化の繁栄の背景を理解する。オスマン帝国の多民族国家統治の特色を理解する。インドにおける新宗教の成立の背景と影響を理解する。銀を媒介とした交易の拡大について理解する。国際商業の活発化が明の商工業や社会に与えた影響について理解する。明末清初のイエズス会宣教師の来航が中国に与えた影響と中国文化がヨーロッパ文化に与えた影響について、具体的事例を挙げて説明できる。 ○ルネサンスの近代的側面と中世的な側面について理解する。カルヴァンの教えが商工業者に受け入れられた理由とその後の社会の進展に与えた影響を理解する。ハプスブルク家とフランス王家の対立を軸に、ヨーロッパ主権国家体制の形成と展開を理解する。商業革命の結果、ヨーロッパにおける東西の分業体制が形成されたことを理解する。英仏の植民地争奪戦をヨーロッパにおける戦争と関連付けて理解する。大西洋世界に形成された大陸間分業体制が西宗教改革における政治的な変革、旧教側の動き、主権国家体制の歴史的意義と現代世界との関連について理解させる。 ○世界各国の産業革命の様子と産業革命がもたらした世界的変化について理解する。独立戦争の社会革命としての側面や、その後のフランス革命やラテンアメリカ諸国の独立に与えた影響を理解する。フランス革命が急進化していった社会背景を理解する。ナポレオンの政権獲得とブルジョワジーの利害との関係や、ナポレオンの征服活動と各国のナショナリズムの勃興との関係を理解する。ラテンアメリカ諸国の独立がヨーロッパのウィーン体制に与えた影響を理解する。ウィーン体制下においてイギリスとロシアが果たした役割と

学習指導要領	都立国分寺高校 学カスタンダード
エ 世界市場の形成と日本 世界市場の形成、ヨーロッパ諸国のアジア進出、オスマン、ムガル、清帝国及び日本などアジア諸国の動揺と改革を扱い、19世紀のアジアの特質とその中での日本の位置付けを理解させる。 オ 資料からよみとく歴史の世界 主題を設定し、その時代の資料を選択して、資料の内容をまとめたり、その意図やねらいを推測したり、資料への疑問を提起したりするなどの活動を通して、資料を多面的・多角的に考察し、よみとく技能を習得させる。 科学技術の発達や生産力の著しい発展を背景に、世界は地球規模で一体化し、二度の世界大戦や冷戦を経て相互依存を一層強めたことを理解させる。また、今日の人類が直面する課題を歴史的観点から考察させ、21世紀の世界について展望させる。 ア 帝国主義と社会の変容 科学技術の発達、企業・国家の巨大化、国民統合の進展、帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、国際的な移民の増加などを理解させ、19世紀後期から20世紀初期までの世界の動向と社会の特質について考察させる。	影響について理解する。1848年の革命の限界点や、東西ヨーロッパでの内容の違い等について理解する。クリミア戦争の世界史的意義を理解する。イタリアとドイツの統一の背景となったヨーロッパの国際情勢の変化について理解する。アメリカ合衆国における民主主義の発展の影にあったインディアンや黒人、移民の問題を理解する。 ○ヨーロッパ諸国のアジア進出が大航海時代とは性格が異なることを認識させ、アジア諸国の動揺と、ヨーロッパから見た日本の位置づけについて考察させる。イギリスによるインド支配の特徴やイギリスが用いた土地政策とインドの村落社会の解体の関係について理解する。中国の伝統的な中華思想がイギリスの自由貿易の実現の妨げになっていったことを具体的な事例を挙げて説明できる。太平天国が勢力を拡大した社会的背景について理解する。洋務運動と明治維新を比較し、その相違を理解する。日清戦争の結果が、その後の東アジア世界に与えた影響を理解する。 ○設定した主題にかかわる文字資料や、絵画、風刺画、写真などの図像資料を取り上げ、内容、糸、狙いなどについて考察し、その時代の人々が自分たちの時代や社会をどうとらえ、どう表現しようとしたかを理解することができる。 科学技術の発達や生産力の著しい発展を背景に、世界は地球規模で一体化し、二度の世界大戦や冷戦を経て相互依存を一層強めたことを理解させる。また、今日の人類が直面する課題を歴史的観点から考察させ、21世紀の世界について展望させる。 ○第二次産業革命の進展が、各欧米諸国間の帝国主義的対立を生んだ経緯を、1870年代の大不況を含めて説明できる。また、帝国主義列強の対立が激化する中で、イギリスとドイツを中心とする二つの陣営からなる国際対立が形成されていったことを理解する。

学習指導要領	都立国分寺高校 学カスタンダード
イ 二つの世界大戦と大衆社会の出現 総力戦としての二つの世界大戦、ロシア革命とソヴィエト連邦の成立、大衆社会の出現とファシズム、世界恐慌と資本主義の変容、アジア・アフリカの民族運動などを理解させ、20世紀前半の世界の動向と社会の特質について考察させる。 ウ 米ソ冷戦と第三世界 米ソ両陣営による冷戦の展開、戦後の復興と経済発展、アジア・アフリカ諸国の独立とその後の課題、平和共存の模索などを理解させ、第二次世界大戦後から1960年代までの世界の動向について考察させる。 エ グローバル化した世界と日本 市場経済のグローバル化とアジア経済の成長、冷戦の終結とソヴィエト連邦の解体、地域統合の進展、知識基盤社会への移行、地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーをめぐる問題などを理解させ、1970年代以降の世界と日本の動向及び社会の特質について考察させる。 オ 資料を活用して探究する地球世界の課題 地球世界の課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通	○第一次世界大戦の結果もたらされた政治・経済・国際関係の在り方についての変化を理解する。ロシア革命における各勢力の政策の違いや二月革命と十月革命の性格の違いを理解する。大衆的基盤をもつ民族運動の中で、第二次世界大戦後の各国の指導者が台頭してきたことを具体的な事例を挙げて説明できる。各国がブロック経済政策を進めるに至った背景と、ブロック経済政策が世界情勢に与えた影響について理解する。日本の軍部の台頭、イタリア・ドイツのファシズム諸国の動きを、世界恐慌の影響と関連付けて理解する。1941年の独ソ戦と太平洋戦争の開始が第二次世界大戦に世界戦争としての性格をもたらしただけを理解する。第二次世界大戦の複合的な性格について理解する。 ○ドイツと日本の戦後処理の違いについて理解する。冷戦の構造が政治体制とイデオロギーの対立であることと冷戦状態が継続した背景に核の抑止力が働いていたことを理解する。国際社会への復帰を果たした日本の課題を説明できる。第三世界の台頭が国際情勢に与えた影響を具体的な事例を挙げて説明できる。米ソ両国の自陣営における相対的な地位の低下を具体的な事例を挙げて説明できる。 ○新興工業地域の発展が進む中で、途上国の中にも経済格差が生まれていったことを理解する。アジア社会主義国の経済の自由化の進展が、政治的混迷や新たな社会問題を生んだことを理解する。ソヴィエト連邦でペレストロイカが推進された背景を理解する。東欧社会主義圏の消滅、ソヴィエト連邦の解体がもつ世界史的意味を、冷戦終結後の世界の状況を示しながら説明できる。WTOに期待されている役割と、世界経済の多元化に対応するための新たな動きを具体的な事例を挙げて説明できる。 ○国際連合の平和維持活動の展開と課題について具体的事例を挙げて説明できる。「多文化主義」の考え方が、様々な集団間の共存を求める動きに影響を与えていることを理解する。環境や資源・エネルギー問題につい

学習指導要領		都立国分寺高校 学カスタンダード
	して、資料を活用し表現する技能を習得させるとともに、これからの世界と日本の在り方や世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる。	て、歴史的観点から具体的事例を挙げて説明できる。